

受験校一覧表

12月に入り受験校が確定したと思います。まず受験に向けて、確実に手続きを進めていかなければなりません。職員一同でも精一杯サポートしますが、最終的には自分で道を切り開いてほしいと思っています。

公立高校の受検に向けての手続きは、基本的には中学校で進めていきます。出願書類の準備も、受検料の徴収も中学校で行います。ただ以前もお知らせした通り、千葉市立千葉高校と千葉市立稲毛高校は千葉市の納付書、松戸市立松戸高校は松戸市の納付書が必要となります。それぞれの高校のホームページも確認しましょう。市立船橋、市立習志野は現金で納入となります。これらの学校を受検する人は早めに納めておきましょう。

特に私立高校の受験にあたっては、まず募集要項を手に入letしましょう。高校に行けばもらえますし、近年はほとんどの学校でホームページ上からダウンロードできると思います。必要な種類や手続き期間を細かくチェックしましょう。

来週から受験校を裏面にある見本のように、一覧表にまとめてもらいます。2枚作成し、片方は提出、もう片方は合格袋に入れて活用してもらいたいと思います。表を埋められるように準備をしてください。

試験に向けた対策

受験校が決まったら、手続きの準備とともに試験の対策もしていきましょう。

公立高校については、まず学力検査の対策です。過去問は入手していますか。一般的な書店に過去5年分ぐらいの問題がまとめられた本があります。ある程度の出題パターンがあるので、それに慣れていくことは大切だと思います。土日祝日に受検当日と同じ時間で取り組み、時間配分なども意識して行くとさらに効果的だと思います。得点が伸びそうな分野を確認し、重点的に勉強しましょう。

続いて、私立高校を推薦制度で受験する場合です。一般の受験生に比べて合格の可能性が格段に高まります。過去の例を見ても、不合格になっている人はほとんどいません。しかし、推薦制度は合格を確約するものではありません。実際、過去の受験において、複数の生徒が単願推薦や併願推薦で不合格になっています。その原因は…

① 第1希望ではないので、その高校のことを十分に調べていなかった。(面接)

② 推薦がOKされて、合格したつもりになって、過去問をやっていないかった。(学力)

併願推薦であっても受験する以上、入学する可能性がある高校です。その学校のことを十分に調べていないことはあり得ません。推薦は高校と中学校との信頼関係の上に成り立っているものです。その信頼を損なうことがないようにお願いします。

また、私立高校は、高校ごとに入試問題の傾向が大きく異なります。公立同様に、受験する高校の過去問をやっておけば精神的に余裕が生まれます。大きな書店へ行けば、私立高校ごとの過去問を売っています。必ず入手して、冬休み中に取り組んでください。

それは、推薦された生徒の最低限の義務ではないでしょうか。